

フランツ・リスト…19世紀を代表する文化人。

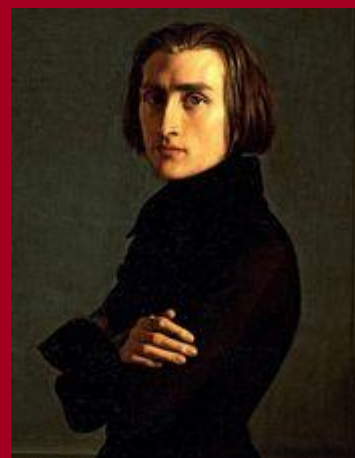
“華やかなピアノのスター”というのは、実は彼のほんの一面に過ぎず、作曲家として20世紀音楽への道を開き、芸術家としてだけではなく、宗教家としても深い精神性をもって音楽に取り組みました。自身が音楽学校を設立したり、大災害の被災者を救援するためのチャリティー演奏会を始めたりしたことからも、リストと社会との関わりを理解できます。

しかし、スーパースターの彼でも、その生涯で心から満たされる時間はとても少なく、彼自身の心の中には高貴なものと卑俗なものが共存していて、内心は常に心の安らぎを求めているものと思われます。

彼にとって藝術とは、魂の悪しき部分を救うものであり、音楽家はそのために自分の才能全てを捧げなければならないという信念を持っていました。

リストの本質を理解し全て書きだすことは大変困難なことですが、このCDは、私がリストの様々な作品を通し、彼が感じ、求めた精神性を、演奏を通して表現できたら…という想いで、リストの複雑な魂とその生涯に思いを馳せながら臨んだ作品集です。

リストの世界に浸っていただけを願って…。



安田里沙

---

#### 《曲目》

- 1 ラ・カンパネラ
- 2 ハンガリー狂詩曲第2番嬰八短調
- 3 愛の夢第3番（3つの夜想曲より）
- 4 リゴレット（演奏会用パラフレーズ）
- 5 セレナーデ
- 6 献呈
- 7 巡礼の年第1年《スイス》より「オーベルマンの谷」
- 巡礼の年第2年補遺《ヴェネツィアとナポリ》
- 8 ゴンドラを漕ぐ女
- 9 カンツォーネ
- 10 タランテラ